

# 平成30年度 会派調査研究報告書

(視察先1か所につき1枚)

会派名	新生クラブ
出席者	秋山祥司 功刀正広
事業名	テレワーク・サテライトオフィス について
事業区分	①研究研修 ②調査

## 1. 韮崎市での課題と研修・調査の目的

本市においての人口減少の対応策に、女性の働ける場があることが必要ではないかと考え、積極的に取り組んでいる駒ヶ根市の話を聞き参考にし、テレワークという子育てや介護の合間に効率よく場所や時間にとらわれずに、自分でできることを選んで働くという新しい働き方を実現したい。

## 2. 実施概要

実施日時	平成31年 2月 6日(水) 13:30 ~ 15:00
視察先	駒ヶ根テレワークオフィス(テレワークセンター)
担当部局	産業部 商工振興課 → (担当部署のみで良いかと思います)

報告内容	<p>駒ヶ根市では、妊娠や出産を機に70%の女性が仕事を辞めざるを得ない。その原因としては、雇用の中心が製造業でデスクワークが少なく、またシフト変更や配置転換が難しいため育休や時短勤務等の制度が整備されつつあるが、取得が難しい状況が挙げられる。</p> <p>駒ヶ根市では、働きたくても働けない子育て世代の女性も、自分のやりたい仕事を時間や場所を選ばずにすることができる「クラウドソーシングを活用したテレワーク」で収入を得ることができる地域を創ることに取り組んでいる。</p> <p>また、駅前の空き店舗を改装して施設を設置したことを皮切りに、周辺の空き店舗が20件近く活用されるなど、市街地活性化の一翼を担うことになっているとのこと。</p>
------	--

## 1. 運営状況

新生クラブ2名、葦政クラブ4名（1名欠席）の5名で駒ヶ根市役所を訪問。杉本幸治駒ヶ根市長に挨拶の後、加治木 今 市議会議長の歓迎のあいさつを頂く。  
産業部商工振興課工業係長のパワーポイントを利用した丁寧な説明と質疑応答の後、現場視察をさせて頂いた。

## 2. 考察（これらの取り組みを葦崎市にどう活かせるか）

テレワークによる「働き方改革」が、労働力人口の確保や地域活性化による地方創生に結びつくと考える。また、テレワーク導入企業が増える中、そういった企業と繋がりを持つことが、今後の本市への企業誘致に結びつくと考える。

感想（まとめ）  
・ 市政に活かせること

